

## (その 162) 仲間の励ましで人を信じ、生きる希望が湧きました 2019.3 発行

昨年8月、インターネットで調べたとHさんが相談センターに見えました。台東区の自立支援センターの同居者とトラブルって逃げ出し川崎駅前のまんが喫茶で過ごしてきたが、お金が無くなったので助けてほしいというものでした。

所長はHさんと福祉事務所に同行しその日に簡易宿泊所に入ることができました。福祉の担当者は「8月分の生活費はすでに支給しているので1日500円で暮らしてほしい」との事でした。Hさんは食後に1日3回薬を飲んでいて関係で500円では3食食べられず困っていたところ地域の仲間が、事務所で炊き出しの協力をし、生活費が出るまでつなぎました。

一人の生活が長く、人とうまく付き合いができず、またすぐに切れる性格はなかなか治りません。毎週のダベリングやS先生の学習会に参加してゆく中で少しずつ仲間の輪の中に溶け込めるようになってきました。

しかし仕事を見つけて自立するためにはアパートに移らなければなりません。川崎市では「3ヶ月以上お金と薬の管理がきちっと出来る事」また「人と協調性が保てるか」を見極めてからアパートを探す許可を出すことになっているのでみんなで励ましながらHさんを支援しました。

Hさんの努力が実って11月川崎市からアパートへの転居許可が出ました。仲間の人にお世話になったので「どんなことでも皆さんのお手伝いをさせてください」と率先してボランティアの活動やしんぶんの配達を引き受けて仲間から頼りにされる存在になってきました。

相談センターでは「あんなにおっかない人が別人のように優しく変わるんですね」驚きと同時に皆で支援した甲斐があったと確信になっています。

Hさんは「仲間の皆さんのおかげで人を信じられるようになって、人並みとは言えませんが生きてゆく希望のようなものが見えてきました」と喜んでお礼に見えました。